

## 最近、感じること

森 知華子<sup>※</sup>

私は、現在岡山市内の養護学校に講師として勤務しています。大学時代は教育学部で教師になるために勉強をしてきました。教師を目指しながら、化学の方にも興味を持っていました。高校時代から化学が好きで、問題を解くことをとても楽しく感じていました。大学に受かった時も、専修を選択する際理科を希望し、3年になって研究室へ入るのも化学系にと思っていて、大接戦の結果！！（これについては同期の理科研究室の人にしかわかりません。失礼しました。）無機化学研究室へ入ることができました。しかし私にとって楽しかったのは、実験をするという行為でした。それ以外はまったくの勉強不足で「こんな人が化学やってていいのか」と思うくらい今までの勉強が身につけていませんでした。

机上での勉強だけで終わり、開発的な部分がありませんでした。それをより考えさせられたのがこの岡山大学環境管理センターに勤務するようになってからです。大学1年の時、理科研究室はセンターへ見学に行く機会がありました。しかし私の記憶にあまり残っていませんでした（本当にすみません。）。センターに来て、もう一度見学してみると、自分はなぜあの時、聞いてなかったんだろう・・・遊ぶことしか頭になかったのかと後悔しました。

排水基準とか環境基準とか有害物質のような言葉にもあまりピンときてないのに、実験をやっていた自分がこわくなりました。たとえば、「料理を一生懸命つくるけど、つくりっぱなしで、片付けもしない」のような感じです。自分が研究した裏にある廃液の後始末まできちんとして初めてやってきたことが完了します。私はずっと不十分のまま、日々を過ごしてしまったことを後悔しました。

現在講師をしているのも、センターにいていろいろ考え直す機会を与えてくれたおかげで、自分の目標へ向かう意志を強くしてくれたのもセンターの皆さんのおかげと思っています。

不十分で中途半端に時間を費やしてきたことを振り返り、「このままではいけない、自分の向かっていく道はこれだ！！フラフラしてはいけません。」と決心がつかなくなりました。

先生になるためには、机上での勉強には限界があります。今、現場にでて、7カ月が過ぎましたが、机上での勉強はあまり使っていません。それより、1日1日、生徒と過ごす毎日が、新しいことの勉強になっています。頭の中だけで考えているのとは、大違いです。生徒は一人ではありません。その生徒一人ひとりの実態を把握しなければなりません。そして、その実態を把握した上で、この子には、何を身につけて欲しいか、頑張ってもらいたいのか、発達課題を考えていきます。実際、生徒の実態を見るのにも時間がかかりました。私にとって、教材研究と実態把握をうまく両立させることができず、悩みました。前からおられる先生に、いろんなアドバイスを聞いて、頭ではわかったつもりでもいざ授業をすると、ねらいがはっきりしていなかったり、子どもたち全員をみることができなくなったり・・・と、まだまだです。本当に、毎日が生徒も先生も勉強です。

ついこの前、文化祭がありました。今、うけもっている生徒は3年生ですが、この子たちにとっては、

学校生活最後の文化祭でした。何カ月も前から準備にとりかかり、テーマを決めるための話し合いにはびっくりしました。私が高校生だったころは、クラスの雰囲気は、みんなで盛り上げていこうとする気持ちが感じられなかったように思います。だから、テーマを決めるのに、意見する生徒の姿がとてもまぶしくみえました。ステージでのシナリオも完成して、私の方もどっかの劇団の先生のように（！！）演技のチェックをしたりアドバイスをしたりして、生徒と一緒に練習しました。その成果を、彼らたちの思いを、本番でぶつけました。みんなで考え、助け合い、つくり上げてきたものを心おきなくすべてを出せたのではないかと思います。このような熱い熱い経験ができている生徒たちがうらやましく思い、また、これからもこのようないい経験をすることができる場面をどんどんつくっていけるようにならなくてはと思いました。

勝手なことばかり長々と書いてしまい、申し訳ありませんでした。センター勤務は、2年間という短い期間でしたが私にとって、学生時代の研究の本当のまとめができたと思っています。そして、これからの人生への決意を固める大切な時間ともなりました。その間、心暖かく支えて下さったセンター関係の皆様、本当にお世話になり有難うございました。

(※前環境管理センター技術補佐員，現岡山県立岡山養護学校講師)